

2-5 サインデザイン

サイン計画は、 人と街とのコミュニケーション計画

街は常に様々な情報を発信している。人はその情報のなかから、必要なものを選択し理解し、そして行動する。サイン計画は、街の情報を分かりやすく提供する「人と街とのコミュニケーション計画」である。一般的に街のサイン計画と言うと、その街の主要施設や観光施設を案内する公的サイン、交通関連のサインを対象とした表示計画であることが多い。しかしサイン計画の目的が人と街とのコミュニケーション計画とするならば、街の構造を分かりやすく案内することともに、街らしさ（アイデンティティ）やその表情をいきいきと伝えることも重要な役割である。

街の構造が分かりやすい

自分はどこにいるのか。目的とする施設は、どこにあるのか。位置関係はどうなっているのか。そこまではどのくらいの距離なのか。人は、案内サインで街の全体構造を把握し、これからの行動のために必要な情報を記憶し、誘導サインを確認しつつ移動し、目的地に到達する。そして、記名サインなどで確認する。サイン計画で特に留意すべきことは、街の分かりやすさ、街の全体構造のわかりやすさである。街の主要施設や広場、通りなどもそのための一要素として捉えなければならぬ。

街のアイデンティティを人々に伝える

街にはそれぞれ表情がある。店舗、広場、道路、植栽、街具、サインなどの物理的なことや、気候、風土、伝統、気質、などの文化的なこと、それらの様々な要素を、街の表情や構造を伝えるための媒体として生かしていくことが、サイン計画においてとても重要なことであり、それが街のアイデンティティ形成と伝達に大きな役割を果たす。橋通は、「花が映える人にやさしい街」である。サインの形状、色彩、素材、表示、そして環境の中でのあり方なども、橋通らしい表情をもたせたい。

●機能別サインの分類

- 案内サイン** 地区、地域やその中の施設などの全体的な状況を示し、その所在や位置、現在位置との関係などを確認するもの。
- 誘導サイン** 利用者を目的の事物まで誘導する。
a. 矢印表示 b. 距離・時間表示
- 記名サイン** 対象物の名称を標示することにより、他と識別させる。
- 説明サイン** 事物の内容、由来、操作方法などを解説したりする。
a. お知らせ板 b. 掲示板 c. 告知板
- 規制サイン** 安全や秩序を保つために人間の行動を促したり、強制的に禁止を示したり、警告を与えたりする。

※案内サイン、誘導サイン、記名サインは連動して計画され、利用されることが多く、説明サインや規制サインはその場の状況に応じて単独で利用されることが多い。

●統一個店看板

統一個店看板は、地下街や集合テナント等の各個店ごとにファサードにあまり表情をつけられない場合には目的地を確認するという記名サインの機能と、デザインエレメントとして、視覚的に通りに統一性を与える機能を発揮する。しかし一方、各個店のファサードの表情がそれぞれに異なり、又、すでに個店単位の看板を掲げている場合、機能の重複のためにかえって繁雑になり、見苦しくなりがちである。それを避けるために設置高度を高くしたりすると、本来の記名サインとしての機能が損なわれ、実用性に乏しいものとなりがちである。むしろ中途半端な統一個店看板はなく、それぞれのファサードの個性ある表情やサインで特徴を生かすようにするほうがふさわしいと思われる。

●橋通のサイン構成

1. 拠点サイン

A. 大拠点サイン

設置場所／出逢いの広場

ウェルカム広場

※周辺案内サイン及び施設方向誘導サインとの複合

B. 中拠点サインa

設置場所／出逢いの広場

ウェルカム広場

緑の広場

※周辺案内サイン及び施設方向誘導サインとの複合

C. 中拠点サインb

設置場所／各バス停留所

※周辺案内サイン及び施設方向誘導サインとの複合

D. 小拠点サイン

設置場所／ファッションゲート

オアシスゲート

その他

※施設方向誘導サインとの複合

2. 周辺案内サイン

3. 街路案内サイン

4. 施設方向誘導サイン

●サインの基本形

拠点サインの例（周辺案内＋施設方向誘導）

